

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組1	循環型社会の形成
取組の目的	省資源、省エネルギーを推進するとともに、新エネルギーの有効利活用を促進し、自然環境の保全と環境負荷の少ない資源循環型社会を構築します。

現状と課題	◎市民にできる活動として、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取組などを通して、資源循環の理解を深め、環境保全に対する意識の向上に努めた。また、個別リサイクル法の整備等により、循環型社会形成に向けた取組は着実に進展しているが、市民の生活様式を見直し、環境負荷を低減する取組が必要である。 さらに、市民の節電意識が高まる中、今後も各制度のPRに努め、新エネ・省エネ機器の導入促進を図る必要がある。
--------------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	1人1日当たりの家庭ごみの排出量【g】	目標値	618	618	618	618	618	3
		実績値	646	632	602	593	606	
2	年間資源リサイクル率【%】	目標値	26.1	27.1	28.1	29.1	30.8	1
		実績値	22.4	20.3	20.4	19.1	18.3	
3	新エネルギー機器導入促進奨励金の 交付件数【件】	目標値	2,950	3,300	3,650	4,000	4,300	4
		実績値	3,481	4,427	5,312	6,183	6,903	
4	生ごみ処理機等設置費補助金交付件 数(累計)【台】	目標値	1,980	2,055	2,130	2,205	2,280	2
		実績値	1,979	2,028	2,098	2,160	2,204	
5	ISO14001・エコアクション21認証取得事 業所数【箇所】	目標値	136	139	143	146	150	2
		実績値	134	123	129	130	130	
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	2.4

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎太陽光発電システムの導入については、県内トップクラスの奨励金制度等により、住宅の新築や建て替え時に設置する市民が増えており、概ね想定どおりの成果が出ている。 ◎環境月間、エコフェスタ、出前エコ教室等のイベントを通して、3Rの啓発活動を推進した結果、家庭ゴミの排出量の抑制が図られている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎地球温暖化防止に向け、節電・省エネについて企業や地域と協働・連携した取組により、環境意識の向上を図っていく必要がある。 ◎自分たちの住む地域をより良くしていくためには、地域の環境保全活動が実施されていくことが重要であり、自治会活動や公民館活動を通じて行う環境学習の機会を増やし、地域住民が主体となって、積極的に環境の保全に取り組む必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎地球温暖化に向けた課題は深刻さを増しつつあるが、長期的な展望にたち、解決に向けて着実に取り組む必要がある。 ◎太陽光発電の設置は進んでいるが、今後は、太陽光発電以外の風力、バイオマス、太陽熱、地熱などを活用していくことが求められている。
評価結果の平均値	2.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果			
		有効性	効率性	廃止の影響	
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり	
1	環境基本計画推進事業	3	3	3	
2	新エネルギー推進事業	3	3	4	
3	バイオマス利活用推進事業	3	2	3	
4	省エネルギー推進事業	4	3	3	
5	環境教育推進事業	3	3	4	
6	環境美化指導員・推進員設置事業	4	4	4	
7	ごみの収集・運搬・処理事業	3	3	4	
8	生ごみ処理機等設置費補助事業	3	2	3	
9	古紙等資源集団回収自治会奨励交付事業	4	3	4	
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
評価結果の平均値		3.3	3.3	2.9	3.6

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.4	2.3	3.3	2.7

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎袋井市環境基本計画の実行性を高めるため、ごみの減量化や再資源化を推進するとともに、太陽光発電システムの普及促進や、高効率給湯器等の購入費補助を行うなど、資源循環型社会の形成に努めている。 ◎省エネや節電に関する製品の普及など、市民生活や企業活動において環境に配慮した取組を幅広く展開していくことが求められている。	H27の 評価	一部に改善を要する
--	------------	-----------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	資源循環型社会の推進	→	生活スタイルの多様化に対応した資源ごみの拠点回収等を推進し、ゴミの排出量抑制や3Rの普及・啓発を図るとともに、家庭や地域、NPOなどと連携して、自主的に環境改善に取り組む「人づくり」を推進していく。
2	環境保全意識の高揚	→	省エネルギーの促進を広く市民にPRするため、公共施設へのグリーンカーテンの設置や出前エコ教室を行う等、引き続き学校や公民館学級等における環境教育の充実を図る。
3	地球環境の保全	→	新エネルギー機器の導入支援や、地域における環境美化活動を推進することにより、地球温暖化防止に向けた節電・省エネルギー対策や、市民・企業等の環境意識の向上を図っていく。
4			
5			
6			

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組2	快適な衛生環境の確保
取組の目的	市民や企業の環境保全への取組を推進し、自然環境・景観保全を図るとともに、悪臭、騒音や水質汚濁などの公害を防ぎ、快適な環境空間を確保します。

現状と課題	◎近年、省エネルギーなど環境に配慮した生活スタイルや事業活動が定着する一方、新興国等における経済発展を優先した政策により、急速な生活環境の悪化が危惧されている。 袋井市においても、市民生活に身近な騒音や臭気、不法投棄などを未然に防ぎ、市民との協働により、豊かな環境を次世代に引き継いでいく取組が求められている。
--------------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	環境保全協定締結事業所数【事業所】	目標値	58	60	61	63	65	2
		実績値	56	56	56	57	57	
2	公害苦情件数【件】	目標値	431	386	340	295	250	4
		実績値	320	241	266	273	192	
3	環境美化運動の延べ参加者数【人】	目標値	38,008	38,456	38,904	39,352	39,800	2
		実績値	38,478	33,319	30,970	29,086	30,514	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	2.7

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎公害苦情件数については、不法投棄の件数が減少したため、全体の件数が減少した。今後も、原因者に対して適切な監視、指導を継続する。 ◎快適な生活環境を整えるため、自治会等による環境美化運動を実施した。高齢化やコミュニティ意識の変化に加え、公的支援の範囲が拡大していることから、参加者は年々減少傾向にあるが、市民とのパートナーシップによる地域の環境に合わせた取組により成果が出ている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎環境美化運動を継続することにより、地域の衛生や美観が保持されるとともに、市民の環境美化意識の向上や地域全体の連帯感も生まれる。 ◎公害苦情や不法投棄を未然に防ぎ、市民の生活環境を保全するため、環境調査、公害苦情への改善指導等は必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎市民の快適な生活空間を確保するため、環境調査や公害苦情への改善指導は、継続的に対応する必要がある。 ◎自治会等による環境保全活動が推進されるよう引き続き支援し、市民全体の環境保全意識を高めるよう取り組む必要がある。
評価結果の平均値	2.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	バイオマス利活用推進事業	3	2	3
2	環境保全推進事業	4	4	4
3	袋井市食品衛生協会補助金事業	4	3	4
4	美化運動推進事業	4	4	4
5	飼い犬管理事業	4	3	4
6	野良猫の去勢手術費及び不妊手術費補助事業	3	3	3
7	浸水便槽し尿収集料金等助成事業	3	3	3
8	不法投棄対策事業	3	3	4
9	ごみ集積所設置等補助事業	3	3	4
10	新エネルギー推進事業	3	3	4
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.4	3.4	3.1
				3.7

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.7	2.0	3.4	2.7

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎公害苦情件数は、不法投棄パトロールの強化等により年々減少し、平成27年度は192件で、目標を達成している。引き続き、公害苦情を未然に防ぐ取組を推進する。 ◎環境美化運動の延べ参加者数は、高齢化やコミュニティ意識の変化に加え、公的支援の範囲拡大により目標を達成できていないが、快適な衛生環境を確保するため、地域との協働による取組を引き続き推進していく。	H27の評価	一部に改善を要する
--	--------	-----------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	美しい地域の保全	→	市民に身近な自然環境を保全するため、地域との環境美化運動を実施するとともに、自治会への働きかけ等を継続して、参加者の増加を目指した取組を実施する。
2	生活環境の保全・改善	→	環境保全協定については、新規に創業を開始する事業や中小企業を中心に締結に向け推進していく。不法投棄の防止については、パトロールの実施等により、防止に努める。
3	快適な環境の創造	→	狂犬病予防法に基づく犬の登録や、狂犬病予防注射について、獣医師会磐州支部との連携により、効率的に実施するとともに、飼い方の指導を行うことで、快適な環境の確保に努める。
4			
5			
6			

<< 展開方向 >> 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組3	川と海の水質改善
取組の目的	良好な水環境を将来の世代に引き継いでいくため、公共用水域の水質を保全します。

現状と課題	◎健康被害や公害防止のため、川や海の水質汚染の防止に向けた取組が実施されている。全国的に下水道や合併処理浄化槽の普及等により、水質は大きく改善されてきているものの、昔の姿を取り戻すには至っていない。 ◎少子高齢化や人口減少社会の到来による公共施設の維持・更新に要する費用負担など、将来を見据えた効果的、効率的な生活排水処理を進めることなどが課題となっている。
--------------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	汚水処理人口普及率【%】	目標値	67.8	69.0	70.2	71.4	72.6	2
		実績値	67.7	69.0	70.1	71.3	72.5	
2	太田川水質基準(年平均のBOD濃度) 【mg/リットル】 上段:延久橋、下段:三ヶ野橋	目標値	0.6以下	0.6以下	0.6以下	0.6以下	0.6以下	4
			0.9以下	0.9以下	0.9以下	0.9以下	0.9以下	
		実績値	0.7	0.5以下	0.6	0.5以下	0.5以下	
			0.9	0.7	0.8	0.6	0.5	
3	原野谷川水質基準(年平均のBOD濃度) 【mg/リットル】 上段:広愛大橋、下段:諸井橋	目標値	1.3以下	1.3以下	1.3以下	1.3以下	1.3以下	4
			1.5以下	1.5以下	1.5以下	1.5以下	1.5以下	
		実績値	1.7	1.3	1.8	0.9	0.6	
			2.0	1.4	1.3	1.0	0.7	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4:目標を達成し、さらに前年よりも伸びている							評価結果の平均点	3.3

4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている
3: 目標は達成しているが、前年より落ちている
2: 目標は達成していないが、前年より伸びている
1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎太田川、原野谷川とも目標とする水質基準を達成し、水質改善が図られており、想定どおりの成果が出ている。 ◎平成27年度末の本市の下水道普及率は42.6%、接続率は87.2%となっており、合併処理浄化槽も含めた汚水処理人口普及率は、全国や県の平均を下回っている。普及率を高めることで、生活環境の保全及び公共用水域の水質保全の向上に繋げていく必要がある。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎川と海の水質改善のため、公共下水道事業や合併浄化槽設置事業の推進、水辺環境学習会などを通して、市全域で取組が広がるような施策を実施していく必要がある。 ◎公共下水道事業は市民の生活環境の改善や公共用水域の保全のため、必要な事業である。今後、下水道処理区域における接続率を高めるとともに、下水道事業等の集合排水処理ができない区域における合併処理浄化槽設置の推進を図ることが重要な浄化手段であるため、引き続き継続していく必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎水質改善を進めるためには、河川流域に暮らす人々の意識が大きな要素となるため、より効率的な汚水処理が進むよう集合処理区域と個別処理区域の見直しをし、計画的に進めていく必要がある。 ◎水質向上と公共下水道事業の経営力向上のため、接続可能区域における未接続世帯の接続を促進させていく必要がある。
評価結果の平均値	2.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	誇れるふるさとの川づくりプロジェクト	4	4	4
2	合併処理浄化槽設置事業	4	4	4
3	農業集落排水事業	3	3	3
4	公共下水道接続推進事業	3	3	3
5	袋井浄化センター維持管理業務	4	4	4
6	アクアパークあさば維持管理業務	4	4	4
7	公共下水道事業(袋井処理区)	4	4	4
8	公共下水道事業(浅羽処理区)	4	4	4
9	管渠等維持管理費(総合地震対策事業)	4	4	4
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.8	3.8	3.8

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
3.3	2.3	3.8	3.1

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎公共下水道の整備、下水道処理区域内における接続率の向上や単独浄化槽から合併処理浄化槽への付け替えについては、概ね順調に推進している。 ◎生活排水等の汚水処理の推進にあたり、少子高齢化や人口減少社会の到来、公共施設の維持・更新に要する費用負担などを踏まえ、より効率的な汚水処理が進むよう、公共下水道計画区域を再検証した。 ◎経営の健全化と基準外繰入金の解消及び市民負担の適正化を図るため、下水道使用料の見直しを検討し、平成28年4月から新たな使用料体系に変更するよう決定した。 ◎平成23年度から平成27年度まで取り組んできた「誇れるふるさとの川づくりプロジェクト」において、調査・分析やワークショップ、環境啓発イベント、生活排水対策活動など、未来に向けて市民の意識を変えるための取組を通して、一定の成果が上がった。		H27 の 評 価	概ね順調
番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	汚水処理人口普及率の向上	↗	下水道の普及や合併処理浄化槽の設置は、水質保全に大きな役割を果たしていることから、効果的な取組計画に基づき、引き続き、着実に事業を推進していく。
2	広域的な水質浄化対策の推進	→	市民一人ひとりの環境保全の大切さへの理解を深めるため、公共下水道事業や生活排水の水質の向上を目指した啓発や環境教育等を継続的に実施していく。
3	事業系排水の適正処理の推進	→	環境保全協定の締結を進めるなど、工場・事業所等の排水処理施設の適正な維持管理による汚濁負荷の低減を指導し、引き続き排水基準以下を達成するとともに、河川流出の適正な管理に努めていく。
4			
5			

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組4	浅羽海岸地域の保全
取組の目的	海岸侵食対策と沿岸地域の松枯れ対策などを推進し、美しい白砂青松の環境を保全します。

現状と課題	◎海岸保全のため、海岸清掃やサンドバイパス事業、グリーンウエーブ活動を推進する中、グリーンウエーブ活動については、植栽後10年という節目であったため参加者数は増加したが、今後市をあげての継続的な取組が必要である。 ◎命山や防潮堤の整備など防災対策を最優先に取り組んでいるが、魅力ある浅羽海岸の再生に向け、地域をあげての命山や防潮堤を生かした海岸地域の保全に取り組む必要がある。
-------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	浅羽海岸環境保全対策のボランティア 参加者数【人】	目標値	2,640	2,730	2,820	2,910	3,000	1
		実績値	2,640	2,585	2,679	2,821	2,465	
2								
3								
4								
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている							評価結果の平均点	1.0

4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている
3: 目標は達成しているが、前年より落ちている
2: 目標は達成していないが、前年より伸びている
1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎浅羽海岸環境保全対策ボランティアの参加者数は、伸び悩んでいるものの、ボランティアの手で草刈りを行い、保全活動に努めており、地域資源に対する愛護意識の向上に有効である。 ◎平成26年度から袋井市静岡モデル防潮堤整備事業により、津波被害軽減を図るとともに、海岸の自然環境や景観を保全し、憩いの場としての機能の創出が期待できることから有効であると考えられる。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎砂浜、砂丘、海岸林は近年の海岸侵食や松枯れ被害により危機的な状況に直面しており、この状況を放置すれば海岸防護等の機能を失い、津波や高潮などによる大きな被害が予測されるため、将来にわたり海岸地域を保全していく必要がある。 ◎浅羽海岸地域が地域住民に親しまれる場所であり続けるため、防潮堤整備後の利活用や今後の維持管理方法を検討する袋井幸浦の丘プロジェクトを、地域住民、NPO及び企業等とのパートナーシップにより実施するとともに、全市的な意識熟成を図り、保全活動参加者を増加させていくことが必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎サンドバイパスシステムの本格稼働を県に要望するとともに、引き続き市民等と市のパートナーシップにより、防潮堤整備事業や、グリーンウエーブ活動等の海岸愛護活動を推進し、海岸保全に努めていく必要がある。
評価結果の平均値	2.7	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	河川・海岸愛護事業	3	3	3
2	松くい虫等防除事業	4	3	4
3	松林保全管理事業(グリーンウエーブ活動)	3	3	4
4	生活環境保全林ゴミ清掃事業(県有防災林)	4	4	4
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.5	3.5	3.3
				3.8

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
1.0	2.7	3.5	2.4

4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

◎浅羽海岸地域が市民の憩いの場となるよう、命山の完成による平常時における有効活用を図るとともに、防潮堤についても県等と連携し、早期の完成を目指し推進することが必要である。	H 27 の 評 価	一部に改善を要する
◎海岸地域の保全については、地域住民、NPO及び企業等との連携を深め愛護意識を育てる取組を継続していく必要があるため、袋井幸浦の丘プロジェクトを推進していく。		

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	海岸地域全体の保全	→	将来にわたり海岸地域を保全していくため、地域住民、NPO及び企業等との連携を深め、保全活動参加者を増加させていく必要がある。また、命山や防潮堤整備による災害対策強化と共に憩いの機能創出などを図る必要がある。
2	海岸侵食対策の推進	→	サンドバイパスシステムの最適な運用方法の最終案が示されたことから、今後は、最終案に基づく早期の本格稼働や、早く効果が表れるよう更なる検討を引き続き県に要望していく。
3	松枯れ対策の推進	→	防潮堤整備を見据え、引き続き地域と協力して保全活動が実施できるように体制づくりに努めるとともに、県に松枯れ対策等の充実を求めていく必要がある。
4			
5			
6			

◀ 展開方向 ▶ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組5	憩いの空間の創出
取組の目的	みんなが憩える親しみのある、地域の特性を活かした特色ある空間を創出します。

現状と課題	◎緑の基本計画に基づき整備を進め、平成27年度末の一人当たりの都市公園面積は27.97㎡である。 ◎公園の維持管理について、市内の大半の公園を地元が管理しているが、公園愛護団体がない公園や新たに整備した公園について、愛護活動を推進していく必要がある。
--------------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の 評価点
1	都市公園、農村公園、寄付公園、コミュニティ広場等の市民一人当たりの面積【㎡】	目標値	28.3	29.5	29.7	29.9	30.6	2
		実績値	29.1	30.2	30.2	30.1	30.3	
2	公園愛護団体数【団体】	目標値	79	81	83	84	85	2
		実績値	75	77	79	80	82	
3	花いっぱいコンクール参加件数【件】	目標値	56	57	58	59	60	1
		実績値	44	40	47	45	38	
4	河川愛護(リバーフレンドシップ)の協定締結団体数【団体】	目標値	18	19	20	22	23	4
		実績値	18	26	43	46	52	
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている							評価結果の平均点	2.3

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎公園の一人あたり面積は目標値に届かないものの着実に整備を行い面積を増やし、また、河川愛護の協定締結団体も増え、地域住民が公園や河川愛護の活動に取り組むことは有効である。 ◎自治会や市民団体等地域の方々に公園や花壇の維持管理をお願いすることで、憩いの空間を大切にし、経費削減にもつながっている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎市内各所に点在する公園や花壇を地域の住民自らが管理し、地域の財産として継承していくことが必要である。 ◎いつでも気軽に利用でき、地域住民の交流の場や災害時の避難場所として常時、安心して利用するためには協働による管理が必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎公園等について、「袋井市緑の基本計画」等を基に計画的に整備が進められている。 ◎公園施設の老朽化対策については、「公園施設長寿命化計画」に基づき、効率的・効果的な施設の維持管理や更新を図る必要がある。
評価結果の平均値	2.7	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	公園愛護活動事業	3	3	4
2	公園維持管理事業	3	3	4
3	公園施設長寿命化事業	4	4	4
4	公園芝生・樹木等管理委託事業	3	3	3
5	花工場運営事業	3	3	3
6	花咲くふくろい推進事業	3	3	3
7	花壇維持管理事業	3	3	3
8	街路樹愛護報奨金事業	3	3	3
9	街路樹管理委託事業	3	3	3
10	生垣づくり補助事業	3	3	3
11	河川・海岸愛護事業	3	3	3
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.2	3.1	3.1
				3.3

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.3	2.7	3.2	2.7

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎土地区画整理事業や土地改良性事業、民間開発などによるものを含め、181箇所の公園や緑道を整備し、安全・安心に利用いただくため、市民との協働により適切に維持管理を行っていく。 ◎田園や茶畑等の農の資源をはじめ、川や海、里山などの今ある資源を活用した憩いの空間づくりに転換するとともに、宅地内緑化も推進していく。	H27の評価	一部に改善を要する
---	--------	-----------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	公園愛護活動の促進	↗	多くの公園は地域の方々の愛護活動により維持管理されており、これからも地域との協働が不可欠であるため、継続していく必要がある。また、今後整備していく公園についても、地域の自治会等へ公園愛護活動を依頼していく。
2	特性を活かしたうるおい空間の整備	→	農地をはじめ、川や里山などの自然資源や地域固有の歴史や文化を活かした憩いの空間の創出を検討する。
3	身近に利活用できる公園の整備	→	公園は多くの人々が利用する施設であるため、専門業者による適正な管理を行い、公園利用者に快適なつろぎの場を提供していく。組合への一括委託により、事務等の省略化も検討していきたい。
4	花と緑のまちづくりの推進	→	市内の花壇が花工場で生産された花でいっぱいになるように引き続き花育講座の実施等、啓発活動を行っていく。
5			
6			

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組6	快適な都市空間の創出
取組の目的	地域に愛着と誇りを持てる景観づくりと良好な住宅環境の整備を推進し、質の高い快適な生活空間を創出します。

現状と課題	◎土地区画整理事業や地区計画によるまちづくりを推進し、景観に配慮した良好な住宅供給を行い、本市の合計特殊出生率の向上の一つの要因となっている。 ◎今後は、商業施設や公共施設などの都市機能を集約し、子どもや若者、子育て世代から高齢者まで誰もが安心して快適に暮らすことが出来るように、コンパクトシティの実現を目指す必要がある。
-------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H28の 評価点
1	景観重要建造物等指定箇所数【箇所】	目標値	0	10	11	12	12	4
		実績値	0	0	0	14	14	
2	土地区画整理事業の実施面積【ha】	目標値	376.3	383.1	383.1	391.9	396.2	2
		実績値	376.3	383.4	383.4	383.4	392.1	
3	地区計画や建築協定により景観形成が 図られた地区数【箇所】	目標値	20	20	20	22	23	2
		実績値	20	20	20	21	21	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	2.7

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎住民主体のまちづくりを行政が技術的に支援することは、都市計画マスタープランなどの各種計画と整合を図るうえで有効である。 ◎景観の保全や創出は、住民への満足度を高める要因であり、景観形成を推進することは非常に有効である。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎適切な開発を誘導するためには、幹事会や委員会を開催し、その中で指導を行っていくことが効率的である。 ◎建築物等の色彩の規制誘導は、良好な景観形成を図る上で効率的な手法である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎景観形成の推進は、本市固有の特徴的な景観である「農の風景」の保全を図るとともに、これらと調和する街並み景観の保全及び創出は不可欠である。 ◎土地区画整理事業は、土地を換地手法を用い効率的な土地利用を図るものであり、事業が始まればなるべく早期に事業完了を目指す必要がある。
評価結果の平均値	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	景観形成推進事業	3	3	4
2	屋外広告物適正化事業	3	3	3
3	災害に強いまちづくり事業 ※再掲(政策2取組1)	3	3	4
4	計画策定事業(国土利用計画、都市計画マスタープラン等)	3	3	4
5	都市計画決定関連事業	3	3	4
6	地域まちづくり支援事業	4	4	4
7	袋井駅南地区まちづくり事業	4	4	4
8	上山梨第三土地区画整理事業	3	3	4
9	袋井駅南都市拠点土地区画整理事業	3	3	4
10	(仮称)袋井市上山梨地区沿道整備土地区画整理事業 ※再掲(政策3取組7)	4	4	4
11	土地利用適正化事業	4	4	4
12	ICT街づくり推進事業	3	4	3
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.5	3.3	3.4
				3.8

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.7	3.0	3.5	3.1

4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

◎まちづくりは市民との協働により進めていくことが必要不可欠であることから、継続的かつ着実に取組を進めていく。 また、地区計画やまちづくり条例等、住民合意によるルールづくりは、投資的経費が減少するなかで、効率的かつ着実な整備が期待されることから、有効な手法である。		H27の 評価	概ね順調
番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	良質な景観形成の推進	→	景観形成について、市民への周知を図ることにより、景観に対する意識を更に高め、既存の眺望地点や新たな景観重要樹木、景観重要建造物の指定など、適切な景観の保全や形成へと導くことが重要である。
2	密集市街地への対策	↑	袋井駅南地区の既存市街地は、土地区画整理事業により整備を行い、区域周辺と合わせて集約型都市構造を目指す。
3	計画的な市街地の形成	→	上山梨第三土地区画整理事業は順調に進んでおり、平成28年度には、主たる工事を行い、平成29年度の事業完了を目指す。土地区画整理事業により、良好な宅地供給を行い、活気あふれるまちの形成を目指す。
4	ICTインフラ整備の促進	↑	「ICT推進計画」に基づき、オープンデータの推進やWi-Fi環境の整備、ペーパーレス会議システムの導入など電子自治体の推進に取り組む。
5			
6			

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組7	交通基盤の充実
取組の目的	安全で円滑な道路網の整備と公共交通の確保を図り、だれもが快適に移動できる利便性の高い交通ネットワークを構築します。

現状と課題	◎高度経済成長期以降、段階的に整備してきた道路が老朽化してきたことにより、維持管理に要する費用の確保が課題である。 ◎自家用車の普及等により、公共交通に頼らない生活が広がり、民間路線バスや自主運行バスの利用者数が伸び悩み、一人あたりのバス運行経費が増加している。
--------------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	要舗装修繕箇所の整備率【%】	目標値	43.3	52.9	62.5	72.1	88.0	2
		実績値	36.8	41.1	48.5	53.7	59.0	
2	「事業化準備制度」の事業実施数【事業】 (幹線道路・生活道路)	目標値	24	27	29	31	32	4
		実績値	24	33	44	48	51	
3	道路整備10箇年計画道路の整備率【%】	目標値	50.2	50.5	50.7	51.2	51.9	2
		実績値	50.3	50.5	50.7	50.9	51.4	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	2.7

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎長寿命化計画に基づいた道路ストック(舗装、橋など)の適切な管理は、将来の維持管理、更新費用を低減させる有効な手段である。 ◎拠点などへのアクセス性を高める幹線道路や生活道路の整備は、市民の生活環境の向上に大きく寄与する。 ◎駅南地区の東部・南部方面からの道路整備や公共施設の整備により、駅南の玄関先にふさわしいまちづくりが期待できる。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎老朽化する道路ストック(舗装、橋など)の適切な管理は、安心・安全な市民生活の提供や将来の負担額を低減させるために必要不可欠である。 ◎人口減少や高齢化に対応した道路整備や、快適に移動できる交通網の構築が求められている。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎道路ストックの老朽化は確実に拡大しており、将来の負担軽減のため早急に取り組む必要がある。 ◎袋井駅南北自由通路新設及び橋上駅舎化と合わせ、駅南地区における東部(駅南循環線)方面や南部(区11m-1)方面からの道路などの公共施設の整備を行うことにより、駅南の玄関口にふさわしいまちづくりに取り組む必要がある。 ◎袋井駅橋上駅舎の供用開始とともに沿道の土地利用が進むよう一体的な土地利用を誘導するとともに、袋井駅周辺のにぎわいやうるおいのある環境整備が必要である。
評価結果の平均値	2.7	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	袋井駅南地区まちづくり事業	4	4	4
2	道路橋梁維持管理事業(道路保安施設)	3	3	3
3	道路舗装補修事業	3	3	3
4	橋梁の長寿命化修繕事業	3	3	3
5	広域幹線道路整備促進事業	3	3	3
6	(都)上久能山科上線(第二工区)改築事業	3	3	4
7	(都)袋井駅森線改築事業	4	4	4
8	(都)山梨中央通り線改築事業	4	4	4
9	(仮称)袋井市上山梨地区沿道整備土地区画整理事業	4	4	4
10	(都)下山梨上町春岡線新設事業	4	4	4
11	(都)諸井山の手線改築事業	3	3	3
12	市道東同笠油山線改築事業	4	3	4
13	市道湊中新田線改築事業	4	3	4
14	市道湊川井線(諸井橋)改築事業	4	3	4
15	市道太郎兵衛新道国本線改築事業	4	3	4
16	市道大谷幕ヶ谷線改築事業	4	3	4
17	市道小野田田原線改築事業	4	3	4
18	協働によるみちづくり事業	4	4	4
19	3級市道整備事業	3	3	3
20	「クリーンセンター等関連」3級市道整備事業	3	3	4
21	「サンサーラいごおか関連」3級市道整備事業	3	3	4
22	生活バス路線確保対策事業	4	4	4
23	天竜浜名湖鉄道運営支援事業	3	3	3
24	自主運行バス運行事業	2	3	4
25				
評価結果の平均値		3.5	3.5	3.3

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.7	2.7	3.5	3.0

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎袋井駅南北自由通路、袋井駅南口及び駅南循環線(西側)が供用開始されたことから、土地区画整理事業を重点的に推進するとともに、アクセス道路を計画的に整備していく。 ◎道路ストックの老朽化対策のため、中長期の維持管理、更新計画を策定し、確実な管理を行うとともに、計画的な道路整備を着実に進める。	H 27 の 評 価	概ね順調
--	------------------------	------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	JR袋井駅舎及び周辺地区の整備	→	多様な生活機能がコンパクトに集積した都市拠点等を形成するとともに、郊外を結ぶ公共交通ネットワークを整備する。
2	計画的な道路補修による長寿命化	↗	道路マネジメント計画を策定し、段階的に道路舗装補修事業を実施していく。
3	幹線道路及び生活道路の計画的な整備	↗	幹線道路については効率的かつ効果的な整備を着実に進め、生活道路については地域住民との協働により整備を行っていく。
4	利便性の高い公共交通の実現	→	学生や高齢者などの交通弱者の移動手段を確保するため、自主運行バスやデマンドタクシー等の交通手段の組み合わせによる効果的な公共交通網を構築する。
5			
6			

◀ 展開方向 ▶ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組8	安全な水の安定供給
取組の目的	水道施設の管理を適正かつ計画的に行い、安全な水道水を安定的に供給します。

現状と課題	◎水道水を安全かつ安定的に供給するため、計画的に基幹管路の耐震化及び老朽管の更新等を行っている。 ◎各家庭における節水器具の普及等により給水収益が減少傾向にあるなか、一方では基幹管路の耐震化等を着実に進める必要があることから、健全な水道事業経営を維持していくため、料金体系の見直しを行う必要がある。
--------------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	基幹管路耐震化率【%】	目標値	27.9	29.3	30.8	32.2	33.7	4
		実績値	28.5	29.4	35.3	36.4	38.0	
2	有収率【%】	目標値	90.2	90.4	90.6	90.8	91.0	2
		実績値	90.1	90.2	90.2	90.3	90.3	
3	営業収支比率【%】	目標値	108.1	108.1	108.6	109.3	110.0	1
		実績値	104.4	105.0	106.0	102.7	100.6	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	2.3

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎節水意識の向上や節水器具の普及による給水収益の減少に加え、地方公営企業会計制度改正に伴う、みなし償却制度の廃止による減価償却費の増加などにより、営業収支比率が低下している。 ◎水道管の更新による有収率の向上に加え、配水系統の再編による効率的な水道施設の管理・整備を進めることで、経営の安定に繋げていく必要がある。 ◎毎年、計画的な基幹管路の耐震化に加え、老朽管の更新を図ることで、大規模地震に備えた生活インフラの構築を推進する必要がある。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎水道は市民生活における重要なライフラインであり、安全な水を安定的に供給するためにも、基幹管路の耐震化や老朽管の更新を進めていく必要性は極めて高い。 ◎安全な水を安定的に供給するため、基幹管路・施設の耐震化や老朽管の更新を着実に進める必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎静岡県第4次地震被害想定の内容などからも、大規模地震に対応したBCPの観点で、施設整備を進めていくことが求められる。 ◎平成26年3月に策定した老朽管更新(耐震化)第2次計画に沿って、計画的に基幹管路の耐震化や老朽管の更新を進めていく必要がある。
評価結果の平均値	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	基幹管路耐震化事業	4	4	4
2	緊急時対応システム整備事業	4	4	4
3	老朽管更新事業	3	3	3
4	配水系統再編事業	3	3	3
5	小口径老朽管更新事業	3	3	3
6	下水道事業に伴う配水管布設替事業	3	3	3
7	土地区画整理地内配水管布設事業	3	3	3
8	国・県市道整備関連配水管布設事業	3	3	3
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.3	3.3	3.3

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.3	3.0	3.3	2.9

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎水道は市民生活における重要なライフラインであり、安全かつ安定的に供給する目的において、計画的に基幹管路の耐震化や老朽管の更新等に努めている。 ◎営業収支比率の低下は、地方公営企業会計制度の改正等に要因があるが、昨今の給水収益の減少や計画的な基幹管路の耐震化や老朽管の更新の必要性から、水道料金の見直しを行い、平成28年4月から新たな料金体系に変更するよう決定した。	H27の評価	一部に改善を要する
---	--------	-----------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	水道水の安定供給の確保	↗	近年多発している大規模災害に備え基幹管路の耐震化や老朽管を更新するとともに、水道施設の長寿命化を図り、災害に強く、安定供給ができるライフラインを確保する。
2	水道水の安全性の確保	→	安全な水道水を供給するため、水質検査計画に基づく水質検査を、引き続き実施していく。
3	水道事業の健全経営の確保	↗	平成28年4月から料金を改定し、経営の安定化を図るとともに、効果的な配水系統を再編するなど、水道事業の基盤強化を図り、将来にわたって健全かつ効率的な水道事業経営に努めていく。
4			
5			
6			

<< 展開方向 >> 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘